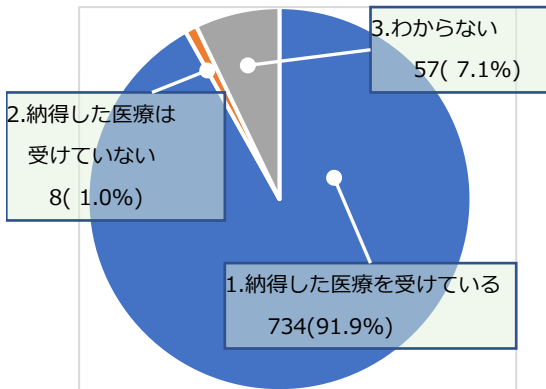
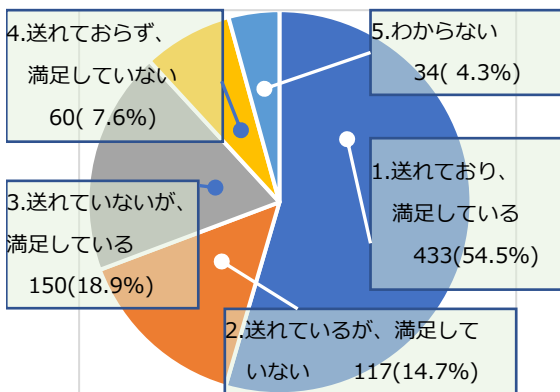


(質問) がんと診断された時から、治療について納得した医療を受けていますか。【○はひとつだけ】



全体	799	
回答	実数	比率
1. 納得した医療を受けている	734	91.9%
2. 納得した医療は受けていない	8	1.0%
3. わからない	57	7.1%

(質問) がんと診断された時から、自分らしい日常が送れていますか。【○はひとつだけ】



全体	794	
回答	実数	比率
1. 送れており、満足している	433	54.5%
2. 送れているが、満足していない	117	14.7%
3. 送れていないが、満足している	150	18.9%
4. 送れておらず、満足していない	60	7.6%
5. わからない	34	4.3%

がんと診断された時から、自分らしい日常が送れていますか。

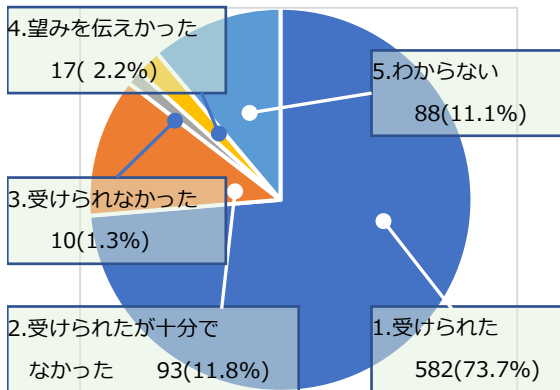
がんと診断された時から、治療について納得した医療を受けていますか。

	1.送れており、満足している	2.送れているが、満足していない	3.送れていないが、満足している	4.送れておらず、満足していない	5.わからない
1. 納得した医療を受けている	418	102	138	48	21
2. 納得した医療は受けていない	3	1	0	3	1
3. わからない	11	14	10	9	12

9割以上の方が「納得した医療を受けている」と判断されていることは素晴らしい結果だと思われる。ただ1%とは言え納得されていない方がいることも忘れてはならない。「納得した医療を受けている」のうち約40%の方が「自分らしい生活を送れていない」「生活に満足していない」と答えられていることは治療後、元の生活に戻れる人ばかりではないが、今の自分に折り合いをつけ、受け入れているのではないだろうか。病と共に歩むという心持ができていると感じる。

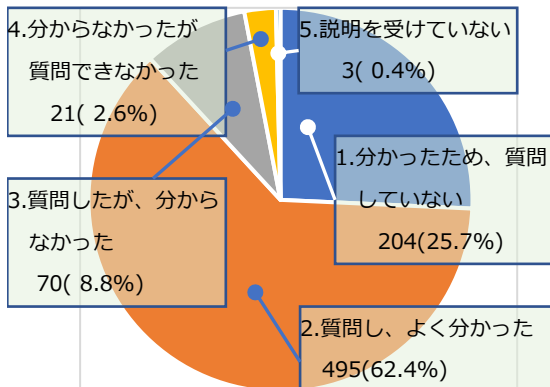
(質問) 診断や治療、支援の中で、あなたの望み(思い)にそった治療等を受けられましたか。

【〇はひとつだけ】



全体	790	
回答	実数	比率
1. 受けられた	582	73.7%
2. 受けられたが十分でなかった	93	11.8%
3. 受けられなかった	10	1.3%
4. 望みを伝えなかった	17	2.2%
5. わからない	88	11.1%

(質問) 診断や治療方針について、医師等に分からなかった事等質問できましたか。【〇はひとつだけ】



全体	793	
回答	実数	比率
1. よく分かったため、質問していない	204	25.7%
2. 質問し、よく分かった	495	62.4%
3. 質問したが、分からなかった	70	8.8%
4. 分からなかったが質問できなかった	21	2.6%
5. 説明を受けていない	3	0.4%

診断や治療方針について、医師等に分からなかった事等質問できましたか。

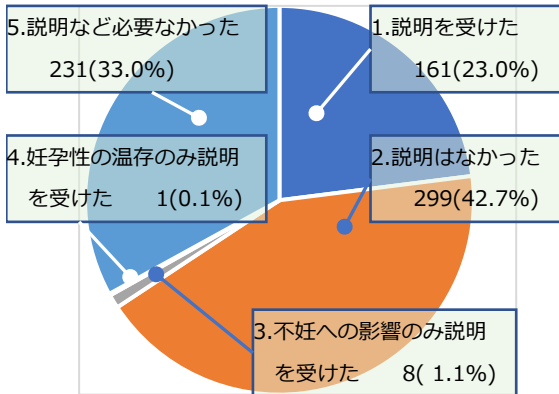
診断や治療、支援の中で、あなたの望み(思い)にそった治療等を受けられましたか。

	診断や治療方針について、医師等に分からなかった事等質問できましたか。				
	1.よく分かったため、質問していない	2.質問し、よく分かった	3.質問したが、分からなかった	4.分からなかったが質問できなかった	5.説明を受けていない
1.受けられた	167	389	14	5	0
2.受けられたが十分でなかった	14	49	26	4	0
3.受けられなかった	1	5	4	0	0
4.望みを伝えなかった	3	7	3	3	1
5.わからない	16	38	22	9	2

「望み(思い)にそった治療を受けられた」と答えた人は7割以上いるが、「望み(思い)を伝えなかった」「わからない」と答えた人が1割強いるのも考えさせられる。望み(思い)にそった治療を受けるためには、医療者との関係は重要なポイントの一つと考えられる。「望み(思い)に沿った治療を受けられた」と答えた人のうち、診断や治療方針について、「質問しよく分かった」と答えた人の割合が7割近くであることから、質問しやすい医療環境作りが重要であることがわかる。又、診断や治療方針について、「分からなかった」と答えている人は望み(思い)にそった治療が「十分ではなかった」「受けられなかった」と感じている比率が高い事をみると、診断や治療方針についての理解を高めることが大切と感ずる。

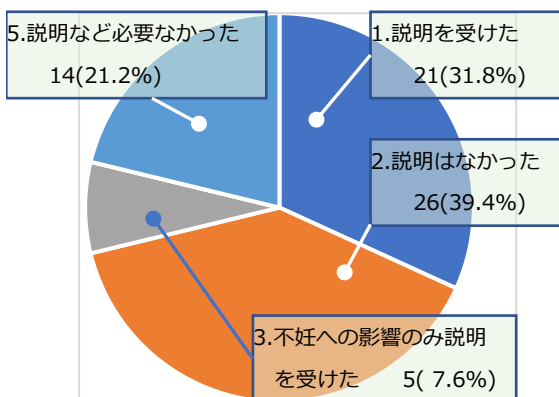
妊孕性（にんようせい）の温存

(質問) 最初のがん治療が開始される前に、その治療による不妊への影響や妊孕性（にんようせい）の温存（下記参照）について、医師から説明を受けましたか。【〇はひとつだけ】



全体	700	
回答	実数	比率
1. 説明を受けた	161	23.0%
2. 説明はなかった	299	42.7%
3. 不妊への影響のみ説明を受けた	8	1.1%
4. 妊孕性の温存のみ説明を受けた	1	0.1%
5. 不妊の説明など必要なかった	231	33.0%

50歳未満の患者さんへの説明



全体	66	
回答	実数	比率
1. 説明を受けた	21	31.8%
2. 説明はなかった	26	39.4%
3. 不妊への影響のみ説明を受けた	5	7.6%
4. 妊孕性の温存のみ説明を受けた	0	0.0%
5. 不妊の説明など必要なかった	14	21.2%

妊孕性（にんようせい）の説明を受けていたのは2割強の人だけであった。妊孕性（にんようせい）の説明が必要と思われる50歳未満の人は全体の1割弱であるが、50歳未満の人に絞って集計しても3割強の人しか説明を受けていなかった。説明の必要がなかったと答えた人を除いても、半数の人への説明しかされていない。治療前の混乱した状況の中の患者さんに対し、より丁寧な説明が求められていると感じる。

参照情報

妊孕性（にんようせい）の温存

妊孕性（にんようせい）の温存とは病気（がん）に対する治療が始まる前に、受精卵や卵子・精子、場合により卵巣の組織を採取し、凍結保存することで、将来それを用いて妊娠・出産するというものです。

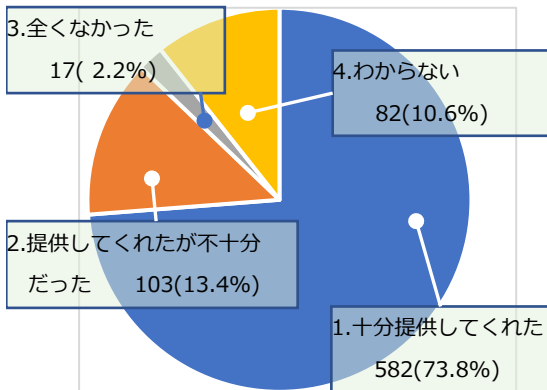
滋賀県ではお子様を望む方が希望をもってがん治療に取り組むために「滋賀県がん患者妊孕性温存治療助成事業」として温存治療費の一部助成が行われています。

⇒⇒⇒がん情報しが (<https://www.pref.shiga.lg.jp/ganjoho/live/107228.html>)

がん治療と妊孕性温存について相談や情報を得たり、施設の紹介ができるよう、滋賀がん・生殖医療ネットワークが開設されています。

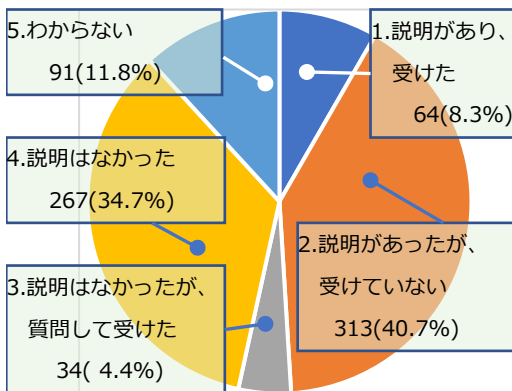
⇒⇒⇒滋賀がん・生殖医療ネットワーク (<http://www.sumsog.jp/of-net-shiga/objective>)

(質問) 「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師、他のスタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。【〇はひとつだけ】



全体	770	
回答	実数	比率
1. 十分提供してくれた	568	73.8%
2. 提供してくれたが不十分だった	103	13.4%
3. 全くなかった	17	2.2%
4. わからない	82	10.6%

(質問) がん治療が始まる前、治療中にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」(p11参照)を受けられることについて担当医から説明はありましたか。【〇はひとつだけ】



全体	769	
回答	実数	比率
1. 説明があり、受けた	64	8.3%
2. 説明があったが、受けていない	313	40.7%
3. 説明はなかったが、質問して受けた	34	4.4%
4. 説明はなかった	267	34.7%
5. わからない	91	11.8%

がん治療が始まる前、治療中にほかの医師の意見を聞く「セカンドオピニオン」を受けられることについて担当医から説明はありましたか。

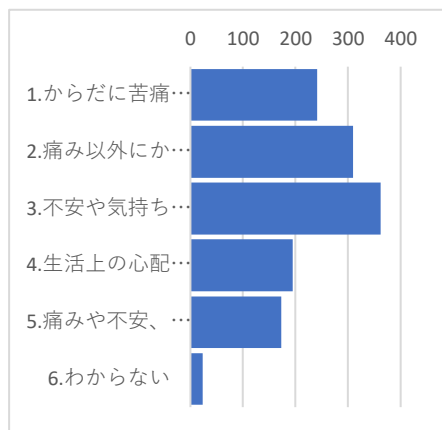
「がん治療」を決めるまでの間、医師、看護師他のスタッフは、治療について、あなたが欲しいと思った情報を提供しましたか。

	1.説明があり、受けた	2.説明があったが、受けていない	3.説明はなかったが、質問して受けた	4.説明はなかった	5.わからない
1.十分提供してくれた	53	255	20	157	66
2.提供してくれたが不十分だった	2	24	11	60	6
3.全くなかった		3		12	2
4.わからない	8	25	3	31	14

「治療が始まるまでに医療関係者より必要と思う情報を得られた」と感じているのは7割強であるが、3割弱の人が十分でないと感じている。セカンドオピニオンについての説明は約4割の人が説明を受けていない。情報提供が十分と答えた人のうち3割がセカンドオピニオンの説明を受けていない。説明がなかった人の中には、知っていたら受けた人がいたかもしれない。正しく理解して、上手に利用することが大事ではないかを感じる。

(質問) 治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。

【〇はいくつでも】



回答者全数	786	
回答	実数	比率
1. からだに苦痛や痛みがあった	241	30.7%
2. 痛み以外にからだの症状があった	309	39.3%
3. 不安や気持ちが辛いことがあった	362	46.1%
4. 生活上の心配があった	195	24.8%
5. 痛みや不安、心配はなかった	173	22.0%
6. わからない	23	2.9%

治療前や治療中に痛みや不安、心配はなかった人は2割強で、それ以外はなんらかの痛みや不安、心配を抱えていたことがわかる。からだの痛みや症状があったと答えている人より、不安や気持ちが辛いことがあったと答えている人の割合の方が高いことが、がんの治療でこころの問題に対応する大切さを感じる。

参照情報

セカンドオピニオン

セカンドオピニオンとは診断や治療に関して、別の病院などで医師の意見を聞くことです。担当医を替えたり、転院したり、治療を受けることではなく、まず、他の医師に意見を聞くことがセカンドオピニオンです。セカンドオピニオンを受けることで、担当医の意見を別の角度からも検討することができ、もし同じ診断や治療方針が説明された場合でも、病気に対する理解が深まることもあります。また、別の治療法が提案された場合には選択の幅が広がったりすることで、より納得して治療に臨むことができます。

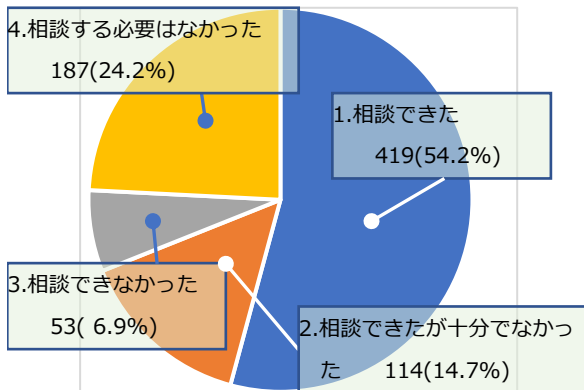
セカンドオピニオンを受けたいと伝えることで、医師は嫌がったり機嫌を悪くすることはありません。積極的にセカンドオピニオンを進める医師も多いです。遠慮なく言い出してみましよう。

緩和ケア

緩和ケアはがんが進行した時期だけでなく、がんが見つかったときから治療中も必要に応じて「つらさを和らげる」ために行われるものです。がんと診断されたときには、ひどく落ち込んだり、不安で眠れないこともあるかもしれません。治療の間には食欲がなくなったり、痛みが強いことがあるかもしれません。緩和ケアはこうしたつらい症状を緩和しながら日々の生活を送るための診療やサポートのことです。

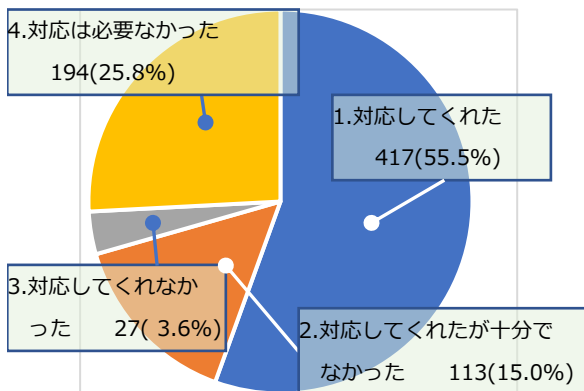
(質問) 身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフに相談できましたか。

【○はひとつだけ】



全体	773	
回答	実数	比率
1. 相談できた	419	54.2%
2. 相談できたが十分でなかった	114	14.7%
3. 相談できなかった	53	6.9%
4. 相談する必要はなかった	187	24.2%

(質問) 身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフが対応（緩和ケア（p11参照））等をしてくれましたか。【○はひとつだけ】



全体	751	
回答	実数	比率
1. 対応してくれた	417	55.5%
2. 対応してくれたが十分でなかった	113	15.0%
3. 対応してくれなかった	27	3.6%
4. 対応は必要なかった	194	25.8%

身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフに相談できましたか。

身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフが対応（緩和ケア）等をしてくれましたか。

	身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフに相談できましたか。			
	1.対応してくれた	2.対応してくれたが十分でなかった	3.対応してくれなかった	4.対応は必要なかった
1.相談できた	360	22	1	28
2.相談できたが十分でなかった	23	72	14	3
3.相談できなかった	7	19	9	5
4.相談する必要はなかった	22	0	2	156

身体や心の痛み、落ち込みについて、「医師や病院スタッフに相談できた」と感じている人は、「対応してくれた」と多くの人が感じている。相談が十分にできなかった人は対応が十分でなかったと感じている人が多い。このことは、相談できることが、身体や心の痛み、落ち込みの緩和に重要であると考えられ、約2割の人が十分相談できなかったと感じていることに対応していく必要がある。

**医療関係者への相談ができたか、対応をしてくれたかによって
心の痛みや体の痛み等の苦痛をどう感じたかの複合状況別の集計**

(質問20) 治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【〇はいくつでも】

回答 1.からだに苦痛や痛みがあった、2.痛み以外にからだの症状があった、3.不安や気持ちが辛いことがあった、
4.生活上の心配があった、5.痛みや不安、心配はなかった、6.わからない

(質問21) 身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフに相談できましたか。【〇はひとつだけ】

回答 1.相談できた、2.相談できたが十分でなかった、3.相談できなかった、4.相談する必要はなかった

(質問22) 身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフが対応（緩和ケア）等をしてくれましたか。【〇はひとつだけ】

回答 1.対応してくれた、2.対応してくれたが十分でなかった、3.対応しなかった、4.対応は必要なかった

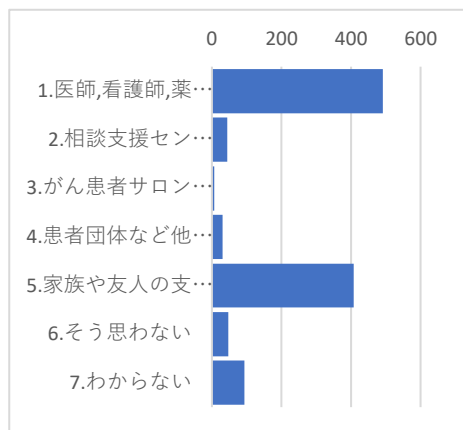
相談の状況別の苦痛や心配の有無		21.身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフに相談できましたか。【〇はひとつだけ】			
		1.相談できた	2.相談できたが十分でなかった	3.相談できなかった	4.相談する必要はなかった
有効回答者数：773		419	114	53	187
20.治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【〇はいくつでも】 (複数回答)	1.からだに苦痛や痛みがあった	161	49	15	11
	2.痛み以外にからだの症状があった	179	68	22	30
	3.不安や気持ちが辛いことがあった	217	76	38	16
	4.生活上の心配があった	97	42	18	32
	5.痛みや不安、心配はなかった	56	4	2	108
	6.わからない	13	2	0	7
	20、21.の有効回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	38.4%	43.0%	28.3%
	2.痛み以外にからだの症状があった	42.7%	59.6%	41.5%	16.0%
	3.不安や気持ちが辛いことがあった	51.8%	66.7%	71.7%	8.6%
	4.生活上の心配があった	23.2%	36.8%	34.0%	17.1%
	5.痛みや不安、心配はなかった	13.4%	3.5%	3.8%	57.8%
	6.わからない	1.7%	1.8%	0.0%	3.7%

対応の状況別の苦痛や心配の有無		22.身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフが対応（緩和ケア）等をしてくれましたか。【〇はひとつだけ】			
		1.対応してくれた	2.対応してくれたが十分でなかった	3.対応しなかった	4.対応は必要なかった
有効回答者数：751		417	113	27	194
20.治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【〇はいくつでも】 (複数回答)	1.からだに苦痛や痛みがあった	164	51	9	10
	2.痛み以外にからだの症状があった	180	62	13	34
	3.不安や気持ちが辛いことがあった	213	79	18	24
	4.生活上の心配があった	101	45	7	33
	5.痛みや不安、心配はなかった	56	4	3	104
	6.わからない	9	1	1	9
	20、22.の有効回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	39.3%	45.1%	33.3%
	2.痛み以外にからだの症状があった	43.2%	54.9%	48.1%	17.5%
	3.不安や気持ちが辛いことがあった	51.1%	69.9%	66.7%	12.4%
	4.生活上の心配があった	24.2%	39.8%	25.9%	17.0%
	5.痛みや不安、心配はなかった	13.4%	3.5%	11.1%	53.6%
	6.わからない	2.2%	0.9%	3.7%	4.6%

相談と対応の複合状況別の苦痛や心配の有無		22.身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフが対応（緩和ケア）等をしてくれましたか。【○はひとつだけ】				
21.身体や心の痛み、落ち込みのある時に医師等や病院スタッフに相談できましたか。【○はひとつだけ】		1.対応してくれた	2.対応してくれたが十分でなかった	3.対応してくれなかった	4.対応は必要なかった	
21の回答		1.相談できた	360	22	1	28
20.治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【○はいくつでも】 (複数回答)	22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	146	11	0	2
		2.痛み以外にからだの症状があった	157	10	0	6
		3.不安や気持ちが辛いことがあった	188	15	0	9
		4.生活上の心配があった	84	10	0	3
		5.痛みや不安、心配はなかった	46	0	0	9
		6.わからない	8	0	1	4
		22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	40.6%	50.0%	0.0%
2.痛み以外にからだの症状があった	43.6%	45.5%	0.0%	21.4%		
3.不安や気持ちが辛いことがあった	52.2%	68.2%	0.0%	32.1%		
4.生活上の心配があった	23.3%	45.5%	0.0%	10.7%		
5.痛みや不安、心配はなかった	12.8%	0.0%	0.0%	32.1%		
6.わからない	2.2%	0.0%	100.0%	14.3%		
21の回答		2.相談できたが十分でなかった	23	72	14	3
20.治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【○はいくつでも】 (複数回答)	22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	8	33	7	1
		2.痛み以外にからだの症状があった	13	44	9	1
		3.不安や気持ちが辛いことがあった	12	52	10	1
		4.生活上の心配があった	7	30	3	1
		5.痛みや不安、心配はなかった	1	2	1	0
		6.わからない	0	1	0	0
		22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	34.8%	45.8%	50.0%
2.痛み以外にからだの症状があった	56.5%	61.1%	64.3%	33.3%		
3.不安や気持ちが辛いことがあった	52.2%	72.2%	71.4%	33.3%		
4.生活上の心配があった	30.4%	41.7%	21.4%	33.3%		
5.痛みや不安、心配はなかった	4.3%	2.8%	7.1%	0.0%		
6.わからない	0.0%	1.4%	0.0%	0.0%		
21の回答		3.相談できなかった	7	19	9	5
20.治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【○はいくつでも】 (複数回答)	22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	2	7	2	1
		2.痛み以外にからだの症状があった	3	8	3	2
		3.不安や気持ちが辛いことがあった	6	12	7	2
		4.生活上の心配があった	4	5	4	0
		5.痛みや不安、心配はなかった	0	2	0	0
		6.わからない	0	0	0	0
		22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	28.6%	36.8%	22.2%
2.痛み以外にからだの症状があった	42.9%	42.1%	33.3%	40.0%		
3.不安や気持ちが辛いことがあった	85.7%	63.2%	77.8%	40.0%		
4.生活上の心配があった	57.1%	26.3%	44.4%	0.0%		
5.痛みや不安、心配はなかった	0.0%	10.5%	0.0%	0.0%		
6.わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%		
21の回答		4.相談する必要はなかった	22	0	2	156
20.治療前や治療時の心の状態やからだの痛み等の苦痛についてお聞かせください。【○はいくつでも】 (複数回答)	22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	4	0	0	6
		2.痛み以外にからだの症状があった	6	0	0	23
		3.不安や気持ちが辛いことがあった	3	0	0	12
		4.生活上の心配があった	4	0	0	28
		5.痛みや不安、心配はなかった	9	0	2	95
		6.わからない	1	0	0	5
		22.の回答者数に対する割合	1.からだに苦痛や痛みがあった	18.2%	-	0.0%
2.痛み以外にからだの症状があった	27.3%	-	0.0%	14.7%		
3.不安や気持ちが辛いことがあった	13.6%	-	0.0%	7.7%		
4.生活上の心配があった	18.2%	-	0.0%	17.9%		
5.痛みや不安、心配はなかった	40.9%	-	100.0%	60.9%		
6.わからない	4.5%	-	0.0%	3.2%		

(質問) がんと診断されたことによる心配や悩みは、何らかの支援によって軽減されたと思いますか。

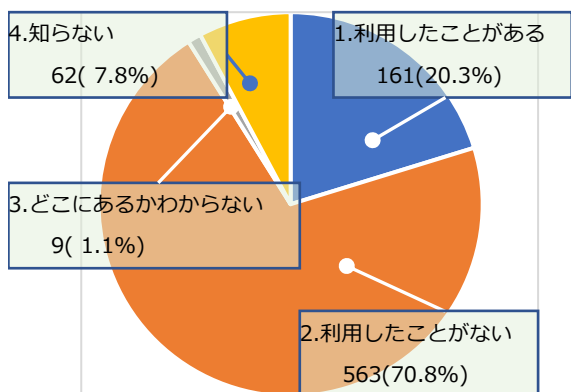
【〇はいくつでも】



回答者数	779	
回答	実数	比率
1. 医師,看護師,薬剤師の支援	491	63.0%
2. 相談支援センターの支援	44	5.6%
3. がん患者サロンに参加して	7	0.9%
4. 患者団体など他の患者との交流	30	3.9%
5. 家族や友人の支援	408	52.4%
6. そう思わない	47	6.0%
7. わからない	93	11.9%

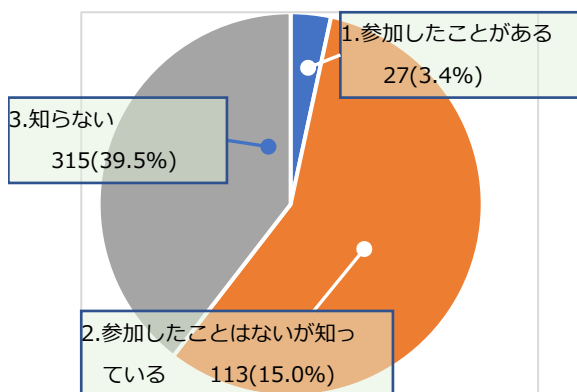
(質問) がん診療連携拠点病院等内に設置されている「がん相談支援センター」やがん診療連携支援病院

に設置されている「がん相談窓口」等 (p16参照) を利用したことがありますか。【〇はひとつだけ】



全体	795	
回答	実数	比率
1. 利用したことがある	161	20.3%
2. 利用したことがない	563	70.8%
3. 知っているが、どこにあるかわからない	9	1.1%
4. 知らない	62	7.8%

(質問) 「がん患者サロン」 (p16参照) があることを知っていますか。【〇はひとつだけ】



全体	797	
回答	実数	比率
1. 参加したことがある	27	3.4%
2. 参加したことはないが知っている	455	57.1%
3. 知らない	315	39.5%

がんの心配や悩みが医療者によって軽減された方は過半数を超え、医療者の対応が大切なことを感じる。家族や友人の支援も医療者について大きなものとなっている。がん相談支援センターやがん患者サロンはその存在は知られているが利用に至っていない。知ってもらい気軽に利用できる環境を整えることが大切だと感じた。

参照情報

アピアランス

アピアランスは「外見や人の容貌」を意味する言葉です。脱毛（頭髪、まつ毛等）、皮膚や爪の変色、変形、手術の傷の後など、治療によっておこる外見の変化に対して、患者の悩みに対処し、支援することを「アピアランスケア」と呼びます。

相談支援センター

がん診療連携拠点病院等には、がんに関する相談や情報提供を行う相談窓口として「がん相談支援センター」が設置されており、誰でも無料でがんに関する相談・情報提供を受けられます。県内では、滋賀県立総合病院、滋賀医科大学医学部附属病院、大津赤十字病院、市立長浜病院、公立甲賀病院、彦根市立病院、高島市民病院に設置しています。がん診療連携支援病院での相談窓口として、大津市民病院「患者総合支援センター患者相談支援室」、草津総合病院「患者サポートセンター」、済生会滋賀県病院「がん診療支援センター」、近江八幡市立総合医療センター「患者総合支援課」、長浜赤十字病院「がん相談窓口」、東近江総合医療センター「がん相談支援室」などの相談窓口を設置しています。

がん患者サロン

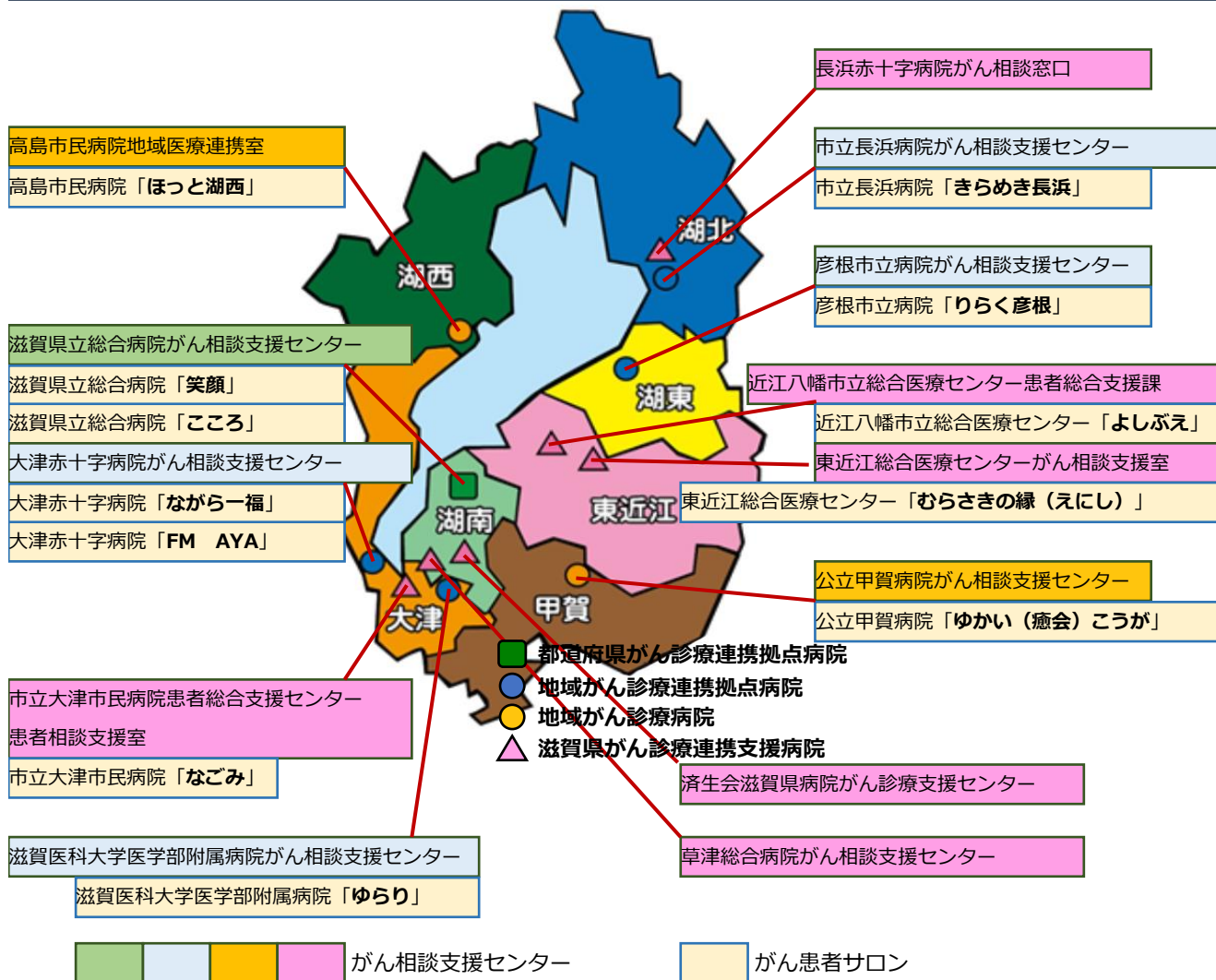
滋賀県内には滋賀県がん患者団体連絡協議会と各病院が協力して院内で開催している12カ所のがん患者サロンや、その他、患者団体等が開催しているがん患者の集まりなどがあります。

滋賀県がん患者団体連絡協議会は以下のがん患者サロンを開催しています。

滋賀県立総合病院:「笑顔」、市立長浜病院:「きらめき長浜」、大津赤十字病院:「ながら一福」、滋賀医科大学医学部附属病院:「ゆらり」、彦根市立病院:「りらく彦根」、公立甲賀病院:「ゆかい(癒会)・こうが」、高島市民病院:「ほっと湖西」、近江八幡市立総合医療センター:「よしぶえ」、国立病院機構東近江総合医療センター:「むらさきの縁(えにし)」、市立大津市民病院:「なごみ」、大津赤十字病院:AYA世代の患者さんのサロン「F.M.AYA」、滋賀県立総合病院:再発・転移・ステージ4の患者さん・ご家族のサロン「こころ」

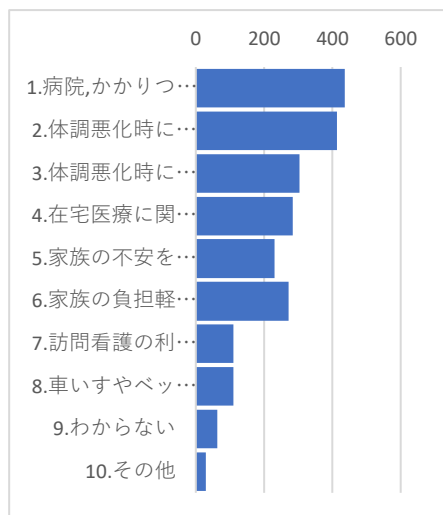
参照情報

がん相談支援センター・がん患者サロン



医療圏	相談窓口	電話番号	がん患者サロン	開催日時
湖南	滋賀県立総合病院がん相談支援センター	077-582-8141	笑顔	毎月第2水曜日13時～15時
	再発・難治性の患者さん・ご家族 ころこ			毎月第4水曜日13時～15時
	草津総合病院がん相談支援センター	077-516-2511		
	済生会滋賀県病院がん診療支援センター	077-552-1221		
大津	滋賀医科大学医学部附属病院がん相談支援センター	077-548-2859	ゆらり	毎月第4金曜日13:30～15:30
	大津赤十字病院がん相談支援センター	077-522-4131	ながら一福	毎月第3金曜日13時～15時
	AYA世代の患者さん FM AYA		FM AYA	毎月第1土曜日13時～15時
	市立大津市民病院患者総合支援センター 患者相談支援室	077-522-4607	なごみ	毎月第3火曜日13時～15時
甲賀	公立甲賀病院がん相談支援センター	0748-65-1641	ゆかい(癒会)こうが	毎月第1水曜日13:30～15:30
東近江	近江八幡市立総合医療センター 患者総合支援課	0748-33-3151	よしぶえ	毎月第4月曜日13時～15時
	東近江総合医療センターがん相談支援室	0748-22-3111	むらさきの縁(えにし)	毎月第4木曜日13:30～15:30
湖東	彦根市立病院がん相談支援センター	0749-22-6050	りらく彦根	毎月第4火曜日13時～15時
湖北	市立長浜病院がん相談支援センター	0749-68-2354	きらめき長浜	毎月第3木曜日13時～15時
	長浜赤十字病院がん相談窓口	0749-68-3389		
湖西	高島市民病院地域医療連携室	0740-36-0220	ほっと湖西	毎月第2火曜日13:30～15:30

(質問) 安心して自宅で療養するために必要なことは、何だと思いますか。【〇はいくつでも】



回答者数	778	
回答	実数	比率
1. 病院,かかりつけ医,訪問看護の連携体制	437	56.2%
2. 体調悪化時に緊急入院できる体制	413	53.1%
3. 体調悪化時に訪問・対応してくれる在宅医や訪問看護師	304	39.1%
4. 在宅医療に関し情報入手や相談できる体制	284	36.5%
5. 家族の不安を相談できる体制	230	29.6%
6. 家族の負担軽減のため短期入院できる体制	272	35.0%
7. 訪問看護の利用の拡大	110	14.1%
8. 車いすやベッドなど福祉用具の充実	110	14.1%
9. わからない	63	8.1%
10. その他	30	3.9%

その他記載内容

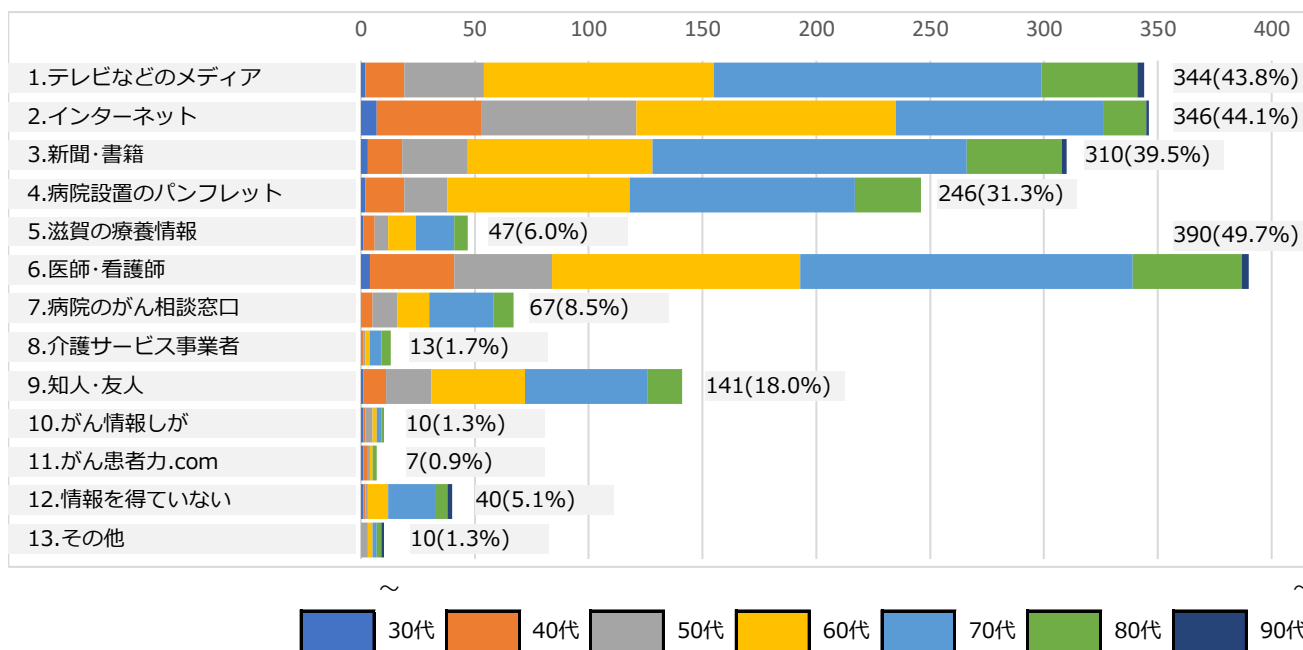
「THERAPY TREATMENT Dog、CAT、MUSIC、FOREST、その他心のセラピーを支援」「不安を感じていないので、このようなことは考えたことがない。」「上記全部必要と思いますが、幸い私自身は軽度の為、それほどの必要性もなく安心してます。」「重症の患者さんの場合は上記すべて必要だと思うが、幸い初期でそこまでの必要は感じなかった。」「家族の理解、思いやり」「ひとり暮らしで病院スタッフが電話で連絡する事」「家族の不安を増やさない様に気遣える所は配慮する」「患者本人、家族が望む対応を即座に実行できる体制。」「経済的不安の軽減」「お金の問題!!」「食事等の情報」「1ヶ月1回、病院に行ってる」「信仰をさせているから」「自分のことは思い付くが家族のことはなかなか思い付かないのが本当のことです」「心のケアは病院ではムリと明示すべき(努力しているのはわかるが、病院は肉体の病気を治すところ)」「金銭面」「家族の介護や保育をしてくれることを支援してくれる体制。」「もっと担当医が相談なり患者のケアを充分にして欲しい。今のところ仕事だからみたいに感じます。患者としては不安、不満が。心のケアどころではありません。」「治療費」「療養費負担の軽減、健康保険の拡充」「H28年9月12日～毎週水曜日通院治療を受けて居ります」「患者の状態や気持ち、家族の気持ちによってそのレベルで異なると思います。それぞれのレベルで必要なアドバイスや対応ができるようお願いします。」「多職種連携はすごく大切。病院と在宅医の連携。薬剤師さんの訪問(麻薬etc使用時特に)」「職場の理解、支援」「子どもがいたので、子どものめんどうを見てくれる人の確保 ex) 夫が介護休暇とるなど…私の介護のための休暇ではないのでとれなかったり…」「前向き、明るく、規則正しい生活」「何にも思う事がないので楽しく一日一日暮らしています。」「退院後すぐ職場にもどれたので必要ありませんでした。」「年金だけでは、入院もままならないです。」

病院間の連携体制や夜間の緊急入院の体制について5割以上の方が、又、4割近くの方が在宅医や訪問看護師について在宅療養には必要と感じている。在宅介護や訪問介護、福祉用品の充実については必要と感じている人は1割前後となっている。

がんも介護保険制度の対象となっているが、高齢化社会の中がんと介護の問題については今後注視していく必要を感じる。

療養情報の情報源

(質問) がん医療の情報やがんの療養情報を何から得ていますか。【〇はいくつでも】



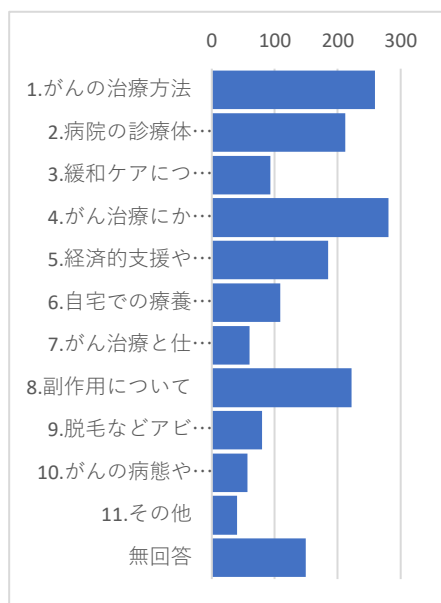
その他記載内容
 「日赤主催の医療講演会」「家族」「乳癌診療ガイドライン、患者ともだち」「医師からの説明時にもらった冊子」「本人ががんになってみてはじめてみんなのいたみがわかりました。」「市民講座等」「自分自身がケアマネジャーのため、これまでの知識」「胃を切った人の情報紙ALPHA CLUB（毎月発行）」

回答者の半数の方が「医者・看護師」から情報を得ているのは予想通りであり、ついで「テレビやインターネット」から情報を得ている人が多かった。「インターネット」については、50代以下の人比率が高く、その情報を正しく理解する力も大切と感じた。一方で、がん対策の施策として行われている「病院のがん相談窓口」「滋賀の療養情報」「がん情報しが」「がん患者力.com」の割合が低かったことは今後への課題である。

回答者数	年代		~							
	785	合計	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	
1. テレビなどのメディア	344	43.8%	2	17	35	101	144	42	3	
2. インターネット	346	44.1%	7	46	68	114	91	19	1	
3. 新聞・書籍	310	39.5%	3	15	29	81	138	42	2	
4. 病院設置のパンフレット	246	31.3%	2	17	19	80	99	29	0	
5. 滋賀の療養情報 (滋賀県作成の冊子)	47	6.0%	1	5	6	12	17	6	0	
6. 医師・看護師	390	49.7%	4	37	43	109	146	48	3	
7. 病院のがん相談窓口	67	8.5%	0	5	11	14	28	9	0	
8. ケアマネージャ等 介護サービス事業者	13	1.7%	0	1	1	2	5	4	0	
9. 知人・友人	141	18.0%	1	10	20	41	54	15	0	
10. がん情報しが (滋賀県がん情報ポータルサイト)	10	1.3%	1	1	3	2	2	1	0	
11. がん患者力.com (滋賀県がん患者団体連絡協議会サイト)	7	0.9%	1	2	1	1	0	2	0	
12. 情報を得ていない	40	5.1%	1	1	1	9	21	5	2	
13. その他	10	1.3%	0	0	3	2	2	2	1	

知りたかった情報

(質問) あなたが知りたかったがんに関する情報や知っておきたかった情報の中で情報提供が十分ではないと思われる情報についてあてはまるものをお答えください。【〇はいくつでも】



回答者数	804	
回答	実数	比率
1. がんの治療方法	259	32.2%
2. 病院の診療体制や治療について	212	26.4%
3. 緩和ケアについて	93	11.6%
4. がん治療にかかる費用について	281	35.0%
5. 経済的支援や利用できる社会保障制度など	185	23.0%
6. 自宅での療養生活について	109	13.6%
7. がん治療と仕事、学業の両立について	60	7.5%
8. 副作用について	222	27.6%
9. 脱毛などアピランス (p16参照) について	80	10.0%
10. がんの病態や統計データなど	57	7.1%
11. その他	40	5.0%
無回答	149	18.5%

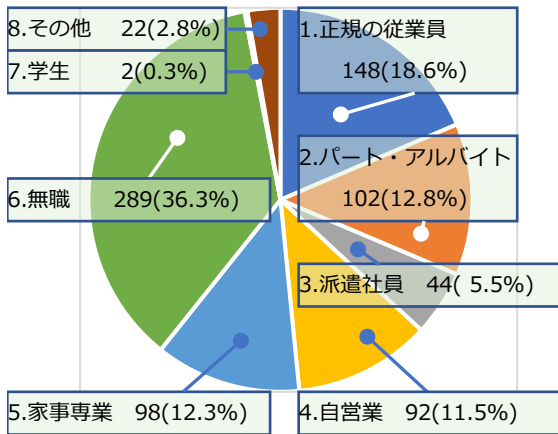
その他記載内容

「病に対して不安になった時など、心のケアについて。」「十分に情報を得ていた」「主治医の先生を信頼しているので治療内容は全面的にまかせている」「ガン克服者の体験談」「手術後の後遺症に対してくわしく説明してほしい」「余命」「知りたい情報は主に医師（主治医）よりその都度説明を受けていたので十分満足していました」「術後の治療体制（転移の事etc）」「転移を調べる方法の種類など」「余命宣告された事を本人が知らないため、介護する人間との残された時間の過ごし方が全かけ離れているため、精神的にどうすれば良いのか毎日困っていた。高齢のため仕方ないとは思っている。」「これからの進行度の不安」「自分のがんに対して情報提供は十分行なわれていた。」「キイトルーダ治療を12回点滴中であるが結果、今後の予定の説明がないので不安！「たのみます、」「がんについてまだまだ自分ではないと思いますしこれは自分のことです。私は定年になってからです。」「がん患者会の運営はきわめて不十分。」「放射線治療後の再発の場合、再建が難しい可能性があること。部分切除、全摘手術のメリット、デメリットについて。十分な情報が得られなかったので、しっかりどうするかなやむことなく部分切除をえらんでしまった」「治療が始まったばかりなのでなんとも言えない。」「不安に思ったことは何もなかったもので、思いあたることはない。」「全摘出後の食事」「十分に担当医師からの説明があり、信頼して手術をして頂いた。」「知りたかった情報はほぼ入手できました。」「十分です」「ウィッグ購入方法に悩んだ（金銭面、質、カット方法）」「癌になった事での合併症に対する治療法。糖尿病の悪化など。」「自分で勉強する。」

副作用も含めた治療方法や診療体制、費用も含めた経済のこと、生活に関することの3つについての情報が足りなかったと感じている人が多い。どこからどのようにその情報を提供するか。医療者、行政、就労先など広く関係するように感じる。これらの情報についてはどういう形で患者に伝えるか、患者に分りやすい説明をお願いしたい。回答の記載のない方が2割弱であった。情報の不足を感じておられない人と思われるが、反面8割近い方が何かしら足りないと感じられていると思われる。

(質問) がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況等について教えてください。

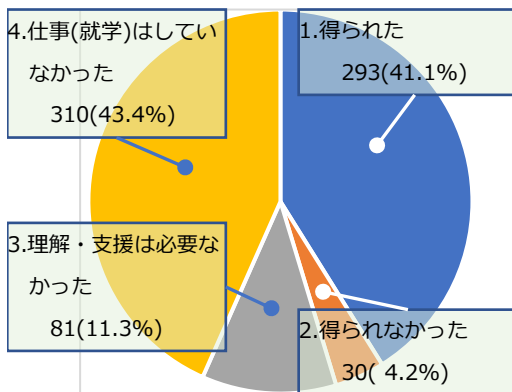
【〇はひとつだけ】



全体	797	
回答	実数	比率
1. 正規の職員・従業員	148	18.6%
2. パート・アルバイト (学生を除く)	102	12.8%
3. 派遣社員・契約社員・嘱託	44	5.5%
4. 自営業・家族従業員 (農業を含む)	92	11.5%
5. 家事専業・家事手伝い	98	12.3%
6. 無職	289	36.3%
7. 学生	2	0.3%
8. その他	22	2.8%

(質問) がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事(学業)の継続に対する事業主(学校)の理解・

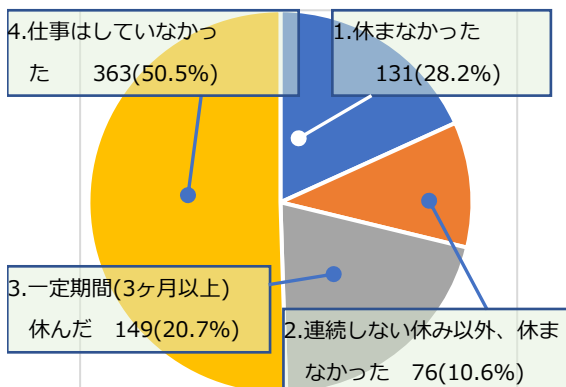
支援は得られましたか。【〇はひとつだけ】



全体	715	
回答	実数	比率
1. 得られた	293	41.1%
2. 得られなかった	30	4.2%
3. 理解・支援は必要なかった	81	11.3%
4. 仕事(就学)はしていなかった	310	43.4%

(質問) がんで初めて治療・療養した時、一定期間(連続して3か月以上)仕事(学校)を休みましたか。

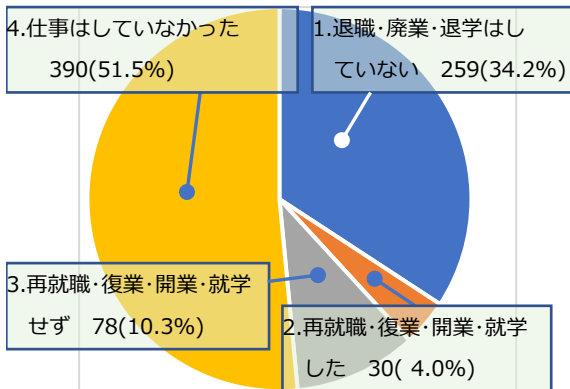
【〇はひとつだけ】



全体	719	
回答	実数	比率
1. 休まなかった	131	18.2%
2. 連続しない休み(1日や半日 休暇)以外、休まなかった	76	10.6%
3. 一定期間(3ヶ月以上)休んだ	149	20.7%
4. 仕事(就学)はしていなかった	363	50.5%

治療のための退職等

(質問) がん治療・療養のための退職・廃業・退学の有無について教えてください。【〇はひとつだけ】



全体回答	実数	比率
1. 退職・廃業・退学はしていない(休職・休業・休学を除く)	259	34.2%
2. 退職・廃業・退学し、現在は再就職・復業・開業・就学した	30	4.0%
3. 退職・廃業・退学し、現在も再就職・復業・開業・就学せず	78	10.3%
4. 仕事はしていなかった	390	51.5%

がんと最初に診断された時の、患者さんご本人の就労状況の質問で「1.正規の職員・従業員」「2.パート・アルバイト(学生を除く)」「3.派遣社員・契約社員・嘱託」「4.自営業・家族従業員 農業を含む」と答えた人で、以下の質問の回答状況

	1.正規の職員・従業員	2.パート・アルバイト(学生を除く)	3.派遣社員・契約社員・嘱託	4.自営業・家族従業員 農業を含む
--	-------------	--------------------	----------------	-------------------

がんと診断され、検査や治療が進む中、仕事(学業)の継続に対する事業主(学校)の理解・支援は得られましたか。

回答者数	143	96	42	72
1.得られた	125 (87.4%)	71 (74.0%)	28 (66.7%)	41 (56.9%)
2.得られなかった	8 (5.6%)	8 (8.3%)	5 (11.9%)	6 (8.3%)
3.理解・支援は必要なかった	10 (7.0%)	17 (17.7%)	9 (21.4%)	25 (34.7%)

がんで初めて治療・療養した時、一定期間(連続して3か月以上)仕事(学校)を休みましたか。

回答者数	137	83	37	70
1.休まなかった	46 (33.6%)	35 (42.2%)	15 (40.5%)	24 (34.3%)
2.連続しない休み(1日や半日休暇以外、休まなかった)	28 (20.4%)	15 (18.1%)	7 (18.9%)	22 (31.4%)
3.一定期間(3ヶ月以上)休んだ	63 (46.0%)	33 (39.8%)	15 (40.5%)	24 (34.3%)

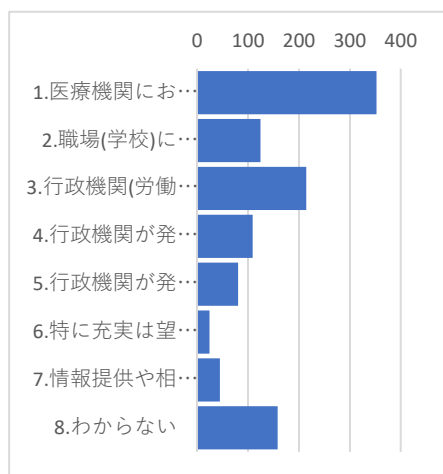
がん治療・療養のための退職・廃業・退学の有無について教えてください。

回答者数	141	90	41	70
1.退職・廃業・退学はしていない(休職・休業・休学を除く)	118 (83.7%)	48 (53.3%)	30 (73.2%)	48 (68.6%)
2.退職・廃業・退学し、現在は再就職・復業・開業・就学した	7 (5.0%)	15 (16.7%)	3 (7.3%)	3 (4.3%)
3.退職・廃業・退学し、現在も再就職・復業・開業・就学せず	16 (11.3%)	27 (30.0%)	8 (19.5%)	19 (27.1%)

働いている人とそれ以外の人半数ずつとなっていた。半数は就労しながら治療をされており、就労されている人に絞って状況を見てみると、雇用形態によって差があることが分かる。

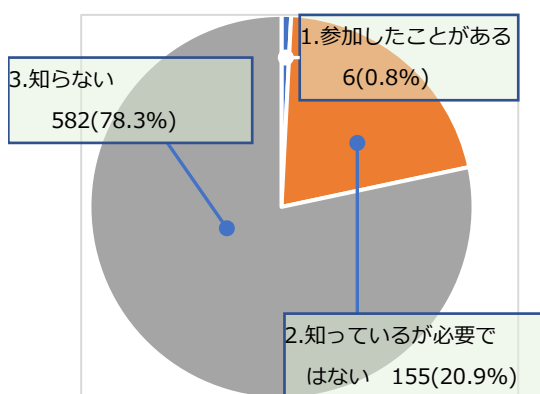
職場の理解は正規の従業員は9割近い人が得られたとしているのに対し、パート、派遣社員、自営業と得られたと感じた人の割合が下がっている。受ける治療によって休みをとる必要があるかには差がでるが、治療のために休みを取ったかに対しては、派遣社員の5割パートの4割の人が休まなかったと答え、正規の従業員や自営業の人と大きな開きがある。退職や廃業の有無についても、正規の従業員は8割の人が退職していないが、パートについては5割弱の人が退職を経験している。パートや派遣社員といった雇用形態の人は、治療と就労の継続に問題があると思われる結果となっている。

(質問) 生活上の困難(経済的なこと、就労、就学のことなど)に関して情報提供や相談支援を受ける場合、どのような点について充実を望みますか。【〇はいくつでも】



回答者数	707	
回答	実数	比率
1. 医療機関における相談支援体制の充実	353	49.9%
2. 職場(学校)における相談支援体制の充実	125	17.7%
3. 行政機関(労働局や県など)における相談支援体制の充実	215	30.4%
4. 行政機関が発信する情報提供サイトの充実	109	15.4%
5. 行政機関が発行する情報冊子の充実	81	11.5%
6. 特に充実は望まない	25	3.5%
7. 情報提供や相談支援を受ける必要はない	45	6.4%
8. わからない	158	22.3%

(質問) 県内の病院で実施している、がん患者を対象とした社会保険労務士による就労相談やハローワークによる個別相談会、両立支援促進員による個別相談会(p25参照)を知っていますか。【〇はひとつだけ】



全体	743	
回答	実数	比率
1. 参加したことがある	6	0.8%
2. 知っているが必要ではない	155	20.9%
3. 知らない	582	78.3%

医療機関における相談支援体制の充実を望む人は約半数と最も多く、治療を受ける場所でのワンストップでの相談を望んでいる。
社会保険労務士による就労相談やハローワークによる個別相談会、両立支援促進員による個別相談会はほぼ8割の人が知らないと答えている。病院で治療中にも相談できる場所があることを多くの患者さんに知っておいてもらうことが大切と感じる。

参照情報

滋賀県がん患者さん就労相談窓口

下記の窓口や病院の相談支援センターで滋賀県下でがん患者さん対象に相談支援を行っています。

就労支援ナビゲーター配置ハローワーク

ハローワーク草津	草津市野村5丁目17-1	TEL 077-562-3720
ハローワーク長浜	長浜市南高田町字辻村110	TEL 0749-62-2030

ハローワーク 出張相談（完全予約制）

県立総合病院	第1、3火曜日	ハローワークの就職支援ナビゲーターが、がん専門相談員と協力して就職を支援しています。
草津総合病院	第3水曜日	
市立長浜病院	第1、3月曜日	

社会保険労務士相談会（予約制）

県立総合病院	毎月第2火曜日	労働関係の専門家である社会保険労務士が、がん専門相談員と協力して就労相談を受けています。
公立甲賀病院	毎月第2水曜日	

両立支援促進員個別相談会

県立総合病院	毎月第4火曜日	病気と労務管理に詳しい両立支援促進員が、がん専門相談員と協力して相談を受けています。
市立長浜病院	毎月第2水曜日	
彦根市立病院	毎月第3水曜日	
大津赤十字病院	毎月第3火曜日	
草津総合病院	毎月第1水曜日	
済生会滋賀県病院	毎月第2火曜日	

病気（がん、メンタルヘルス、糖尿病、脳卒中等）により療養が必要な皆様へ
あきらめないで！治療しながら働くこと

1 治療しながら、働いている方が増えています。

- たとえばがんの場合…
- **がんは身近な病気**でもあります。
⇒ 一生のいずれかの時点でがんと診断される確率
男性：6.2% 女性：4.6%
 - **仕事をもちながら、がんで通院している方の数**は
⇒ 「3.2、5万人」に上ります。

治療と仕事の両立について考えることが大切です。

2 病気と診断された時は・・・

留意点

- 病気と診断されたときも、**あわてて仕事を辞めないでください。**
- **まずはご相談ください。**治療と仕事の両立について、一緒に考えていきましょう。

相談先はこちら！

がんをはじめとする疾病のご相談	滋賀県成人病センター※1 がん相談支援センター/医療・福祉相談室 (注)※1より滋賀県立総合病院に名称変更されます。 ※県内の他の医療機関でも相談を受け付けています。	077-582-8141
不安や悩みをご相談ください。	滋賀労働局総合労働相談コーナー※1 (月・火17:00~22:00、土・日10:00~16:00 祝日除く)	0120-565-455
労働に関するあらゆる分野の相談を受け付けます。	滋賀労働局総合労働相談コーナー※1 大津・彦根・東近江総合労働相談コーナー (大津・彦根・東近江労働基準監督署内)※1	077-522-6648 077-522-6641(大津) 0749-22-0654(彦根) 0748-22-0304(東近江)
療養しながら働きたい方へ	滋賀労働相談所※2 連合滋賀なんでも労働相談 (平日9:30~16:30)	077-511-1402 0120-154-052
社会保険や労務関係でお悩みの方へ	ハローワーク草津・職業相談部門※1 滋賀県社会保険労務士会 (土13:00~17:00要予約)	077-562-3720(4F) 077-526-3760
に関するご相談	日本キャリア開発協会(インターネットへのアクセスによる申込みが必要です) URL: http://www.ncda.jp/haterakata/index.php	
※1 平日8:30~17:15 (祝日除く)	※2 平日10:00~20:00(除く12:30~13:30、15:00~15:15) 祝日17:00~20:00、土日10:00~16:00(除く12:30~13:30)	

がん患者就労支援専門部会・滋賀長期療養者就職支援担当者連絡協議会・滋賀県両立支援推進チーム (事務局 滋賀県 滋賀労働局)

3 体力や健康状態に応じて働けると安心です。

「会社と主治医間の情報連絡シート」を活用してください！



- 次の手順で取り組みましょう
- ① 産業保健スタッフや人事労務担当者に相談してください
 - ② 会社の上司等に「会社と主治医間の情報連絡シート」※を活用した情報共有を申し出てください。
 - ③ 主治医に仕事に関する内容を相談し、意見の記載を依頼してください。

※「会社と主治医間の情報連絡シート」の使い方は滋賀産業保健総合支援センター(077-510-0770)にお問い合わせ下さい。
※ 主治医に記載いただく際は文書料金が必要です。文書料金は医療機関ごとに異なるため、詳細は医療機関にお問い合わせください。例えば、滋賀県成人病センターでは「1,660円」、滋賀医科大学附属病院では「2,700円」となっています(平成29年9月時点)。

4 社会保険や社内制度のほか、自身の健康状態を把握しましょう。

社会保険

- 健康保険法では、**高額な医療費を払った場合の高額療養費の支給**
- **休職した場合の傷病手当金の支給**などが受けられます。
【相談先】協会けんぽ、健保組合または社労士会

社内制度

- **職場の就業規則の内容や、どのような勤務制度や休暇制度があるか**※を確認してください。
【会社によっては病気休暇、1時間単位の年次有給休暇、時差出勤、在宅勤務 など】

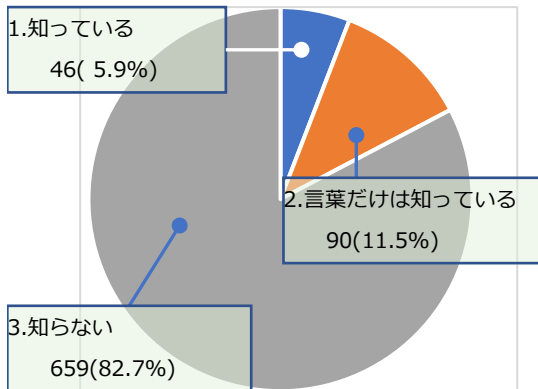
健康管理

- **(健康な時はもちろん、がんの治療後も) 定期健診、がん検診その他必要な検査を受診**しましょう。
また、**要精密検査(要精検)の結果が出たら、必ず医療機関を受診**して下さい。
【相談先】がん相談支援センター/医療福祉相談室、医療機関 など

こちら↓ではがんに関する情報を掲載しています。

- がん情報が 検索
 - がん患者力.com 検索
- 総合的ながん情報サイト がん患者・体験者によるサイト

(質問) あなたは、「がん登録」(下記参照)について知っていましたか。【○はひとつだけ】



全体	786	
回答	実数	比率
1. 知っている	46	5.9%
2. 言葉だけは知っている	90	11.5%
3. 知らない	659	82.7%

「知らない」が圧倒的に多い結果となった。公開講座などを利用し、「がん登録」の意義やがん対策への活用等の有用性を広めていくことが必要ではないか。がん登録という制度を知ってもらうことは、データの信頼性や情報の客観性に対する理解を深めるためにも役立つと考える。

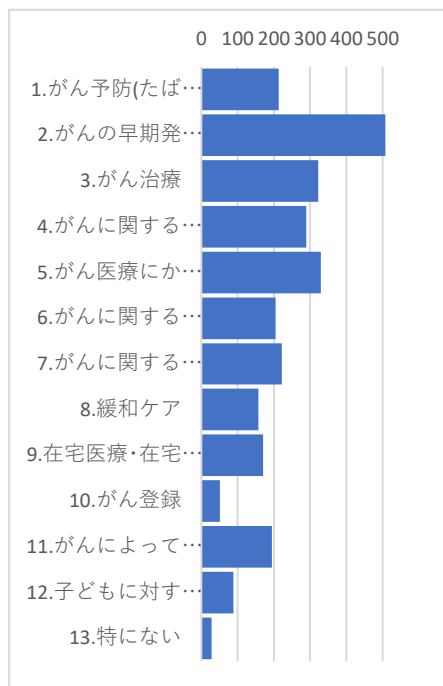
参照情報

がん登録とは

わが国の死因の第1位である「がん」の実態を把握するために、がんの診断や治療および予後に関する情報を登録することを「がん登録」と呼んでいます。今までわが国で実施されてきた「がん登録」には、「地域がん登録」「院内がん登録」「臓器別がん登録」があり、それぞれ目的や仕組みが少しずつ違います。このうち「地域がん登録」は、地域における「がん罹患」「がん死亡」等の状況を適正に把握し、地域の実情に応じたがん対策の立案や評価に役立てることを目的としています。平成 28 年から全国すべての病院等からがん患者の情報を正確に登録する「全国がん登録」が始まりました。

(質問) がん対策について、滋賀県としてどういったことに力を入れてほしいと思いますか。

【〇はいくつでも】



回答者数	766	
回答	実数	比率
1. がん予防(たばこ対策などの生活習慣病対策も含む)	213	27.8%
2. がんの早期発見(がん検診)	507	66.2%
3. がん治療	322	37.7%
4. がんに関する専門的医療従事者の育成	289	43.1%
5. がん医療にかかわる医療機関の整備(拠点病院の充実など)	330	43.1%
6. がんに関する情報の提供	205	26.8%
7. がんに関する相談やその支援	222	29.0%
8. 緩和ケア	158	20.6%
9. 在宅医療・在宅療養体制の充実	45	6.4%
10. がん登録	51	25.5%
11. がんによって就労困難になった際の相談・支援体制の整備	195	25.5%
12. 子どもに対する、がんに関する教育	89	11.6%
13. 特にない	29	3.8%

がんの早期発見(がん検診)に力を入れてほしいと考えている人は6割以上となっている。がんの経験者は、早期発見の重要性を感じていると思われる。市町のがん検診を受診率を高め、広げていくことが大切である。がん治療、医療従事者の育成や医療機関の整備も4割の人が力を入れてほしい項目としている。滋賀県の地域特性を踏まえ、県民全体が納得した医療と必要な支援を受けられるためにも必要な項目と感じる。